

東京日々新聞

千二拾号



轉々堂主人畧記

具足屋

ホリエイ

千代田下葛籠舞藩の土佐藩に仕えたる家
 祿と奉還し武州羽生所にて荒物
 渡世を以て稲見忠徳の早
 六歳女房から三十五歳女房の中へ一蕙齋
 七人の子を産みこれ心のゆほ難しとて女房
 平常長丈と尻まじき口角なぬの多し女房
 暇を乞ひ出てもきかず一日麻呂とて女房
 乙亥五月十三日の夜逆上り突然と起出仕まひ
 置る刀と取出し女房を切り始
 して女房は乳を呑みながら
 人の児を切信残る娘の三人(百廿四の
 金とて)女房が憎き姿動いた事も
 知りつら女房の幼地中親古が惘然と
 我手は解く連る女房武科の残金とて女房
 女房の身をかきと討しと遺言を告ぐ
 終つて是をありといふ女房のあやう
 突を女房又も刀を取直し自ら首切
 けて女房の引切人見も悲しき
 景況多し隣家も高し運卒等も来り
 てこれとて女房の遺言を告ぐ

一蕙齋
 一
 時

